

合併後のまちづくりと文化財保護・啓蒙 活動

—新「木津川市」における自治体と住民団体の関係—

京都大学総合人間学部 足立幸男ゼミ¹

小野卓哉² 猿渡葵³ 牧村雄⁴ 小泉俊一郎⁵

宮武弘幸⁶ 永見香央里⁷

¹ 発表順：10 番目

² 代表者・発表者、総合人間学部 3 回生

³ 発表者、総合人間学部 3 回生

⁴ 総合人間学部 4 回生

⁵ 総合人間学部 4 回生

⁶ 総合人間学部 2 回生

⁷ 文学部 1 回生

はじめに

木津川市は2007年3月12日に木津町・山城町・加茂町の3町が合併することで誕生する新市である。大抵の場合、市町村合併は職員の削減やスケールメリットの発生など行政サービスの効率化といった点からその利点を主張されている。しかし、そもそも自治体の究極の目的とは住民の「福祉 (Well-Being)」を実現することである。そのためには物質的なもののみならず、非物質的なものも含む資本の開発が必要であるが、専ら効率性の観点から合併を論じることは物質的資本のみに目を向け、非物質的資本の開発を軽視することにつながる。今回扱う木津川市に即して考えると、この市には多数の文化財から形作られる伝統ある文化という活かすべき非物質的資本が存在するので、新たなまちづくりの柱に文化活動を置くという試みが行われるべきなのである。

このようなまちづくりを目指した場合、住民団体の活動が非常に重要になってくる。しかし、合併が住民団体の活動に影響を及ぼすことは否めない。そのため、合併によって住民団体の活動が阻害されることのないような施策が必要となる。そこで本論文では、文化活動を文化財の保護・啓蒙活動と定義し、文化財に関連する住民団体の活動が合併後円滑にすすむような解決策を主に論じていく。

I 文化活動を柱としたまちづくりの重要性とそれをめぐる木津川市の課題

文化活動を柱としたまちづくりをするうえで、いくつかの問題点が、行政や文化財の保護・啓蒙活動に取り組む住民団体などに対するヒアリングや文化財保護制度の検証から明らかになった。

その中で最も重大な問題は住民団体と自治体の合併後の関わり方である。3町には文化財にかかわる住民団体（文化財のガイドなど）が存在している。これらの団体は活動の目的として文化財の魅力を町内外に広く知らしめることなどを挙げてそれぞれの町内で活動を行っている。

こうした中、木津川市の発足により自治体側の体制が大きく変化することとなる。これまで各町の団体はそれぞれの形で行政との関係を持ってきた（たとえば山城町には、町の文化財愛護団体登録制度という、ほか2町には無い独自の制度がある）。木津川市の誕生によって、これらの関係は変化を強いられることとなるが、私たちは、むしろこの合併を契機として、行政と団体双方にとって実りある関係を構築すべきだと考える。

II 解決策の検討

住民団体の活動に関しては、各町で個別に活動してきた各民間団体の連携がスムーズに進むように行政が手を貸すことが必要である。更には、各町でまちまちだった行政の支援の仕方を統一し、適切な関係を樹立しなければならない。

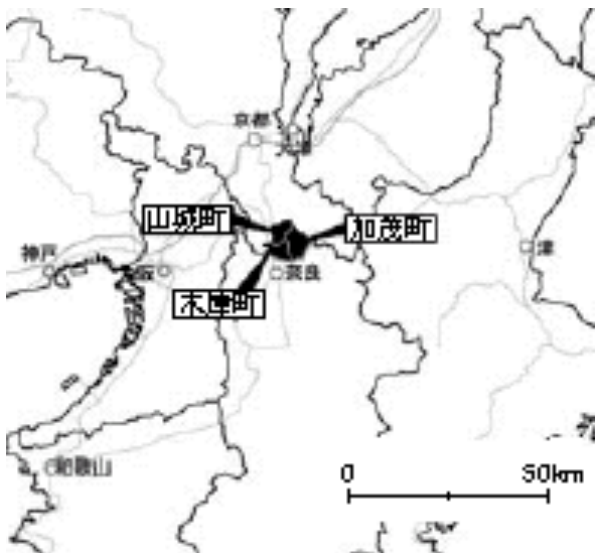
参考資料（木津川市の基礎データ）

1. 木津川市の概要

2007年3月12日、京都府南端に新たな市が誕生する。2006年3月までに行われた「平成の大合併」にはわずかに遅れ、相楽郡に存在する木津町・加茂町・山城町の3町が合併してできる市である。奈良との県境に位置することになる新市の名前は、「木津川市」である。新市の名称の通り木津川流域に位置する木津・加茂・山城の各町は、京都と奈良に挟まれ、遙かな歴史を背景に、豊富な文化財を有している。

① 位置

木津川市は、近畿のほぼ中央、京都府南部の山城地域に位置し、北は井手町、和束町、東は笠置町、西は精華町、南は奈良県奈良市と接している。京都・大阪の中心部から30 km圏内にある。



② 歴史的背景

この地域では、3世紀ごろから木津川が交通路として利用され、淀川を通り大和と瀬戸内を結ぶ航路の起点にあった。奈良時代には、木津が平城京等の都城建設に使われる木材の陸揚げ港として栄えた。「木津」という地名はそれが由来となっている。

天平12年（西暦740年）、聖武天皇が平城京から現在の加茂町に都を移した（^{くま}恭仁京）。都と関連の深い地域として近郊農業により発展する素地を築いた。

その後、奈良・京都・伊勢・伊賀等を結ぶ街道の宿場町等として発展するとともに、宇治茶やタケノコ等の主産地としての名声を高め、引き続き優良な農業地域として栄えた。また、江戸時代には木津川の治水事業や農地の拡大等が進められ、集落が発展し、現在のまちの姿に近いものとなった。

明治時代になると鉄道・道路など交通網の整備が進められ、水運路としての木津川の役割は小さくなった。また、茶の栽培や大都市近郊の立地条件を生かした近郊農業が盛んになった。

1951年に木津町と加茂町が、56年には山城町が現在のかたちとなった。

③ 交通

鉄道は、JR木津駅を中心に奈良線・関西本線・片町線（学研都市線）が通っており、京都・大阪・奈良・三重方面と結ばれている。また、近鉄京都線が木津町の西部を南北に走っており、奈良・京都方面と結ばれている。

道路は、国道 24 号が地域の南北、国道 163 号が東西に伸び、それぞれ京都・奈良、大阪・三重方面へとつながる広域幹線道路として位置づけられる。2000 年に京奈道路の木津インターチェンジが完成し全線が開通した。京奈道路は京都・奈良・和歌山を結ぶ京奈和自動車道の一部を構成する延長 17km の道路で、国道 24 号・国道 163 号の交通混雑の緩和と、関西文化学術研究都市間のアクセスの向上が図られている。

	人口	世帯数	1 世帯あたり人数	面積(km ²)	人口密度 (人/km ²)	
加茂町	15951	5510	2.89	36.97	431.5	2006 年 9 月 1 日現在
木津町	40688	14325	2.84	23.62	1722.6	
山城町	9016	2789	3.23	24.53	367.5	
新「木津川市」	65655	22624	2.90	85.12	771.3	
京都府(参考)	2644162	1089162	2.43	4612.97	573.2	2006 年 7 月 1 日現在
京都市(参考)	1473050	659362	2.23	827.90	1779.3	2006 年 8 月 1 日現在

出典:各自治体 web サイト

2. 3町合併までの流れ

年	
2003	2月、相楽郡任意合併協議会が解散され、7町村合併が白紙に。
2004	9月、木津町長選挙において合併推進派の河井規子氏が当選。
2005	10月、木津町長、加茂町・山城町に対して3町合併の申し入れを行う。
	1月、京都府庁で行われた7町村長の意見交換において、3町の合併後に「さらに大きな合併を目指す」ことを確認。
2006	4月1日、3町法定合併協議会が設置される。
	4月12日、新市の名称が「木津川市」に決定される。
	5月20日、合併調印式。

① 7町村での合併試案

この地域は当初、相楽郡7町村（精華町・木津町・山城町・加茂町・笠置町・和東町・南山城村）での合併を目指していた。7町村合併は特に東部の町村が切望していたが、法定合併協議会設置の段階で、財政的に豊かな木津町の離反により破綻した。（木津町住民アンケートで合併賛成は7.91%であった。）

※西部の町…町の一部がけいはんな学研都市となっている精華町・木津町を中心とし、交通の便が比較的良好い山城町・加茂町を含めたもの。2004年9月現在の人口総数は93326人（府統計課：京都府推計人口調査より）、2003年度普通会計決算の歳入額は32,757,009,000円（府地方課：市町村決算統計資料より）。

東部の町村…山林の多い和東町・笠置町・南山城村。2004年9月現在の人口総数は10874人（府統計課：京都府推計人口調査より）、2003年度普通会計決算の歳入額は6,729,770,000円（府地方課：市町村決算統計資料より）。財政的危機にある。

② 3町での合併

合併推進派の河井規子木津町長の誕生を契機に進められた。3町での合併に落ち着いたのは、西部の町村の希望を折衷した結果である。

木津町→同じく学研都市の一部を有する精華町との合併を望む。相楽郡内での合併ならば、中心的存在になりうるし、中心的存在になる事を望む（ただし、東部の町村を含む合併は負担なので望まない）。

精華町→京田辺市と合併することを望む。

加茂町・山城町→木津町と合併しなければ将来的に財政が重大な危機に瀕する。

京都府→相楽郡の広域合併を推奨する。

3. 木津川市の文化財・史跡

木津川市になることにより、国指定重要有形文化財の件数が京都市に次いで2位、国宝（重要文化財の中から特別に指定される）の件数は京都市・宇治市に次いで京都府内で3位となる。また、国指定史跡は6件（うち1件は特別史跡である）存在している。恭仁京跡・山背古道^{やましるこどう}など歴史的に重要なものから、浄瑠璃寺・岩船寺などの多くの観光客が訪れる華やかなものまで、多くの文化財・史跡が存在しているのである。いまだに指定を受けていない文化財も眠っているといわれ、木津川市は豊富な文化財に恵まれた都市といえる。

国指定重要有形文化財の件数

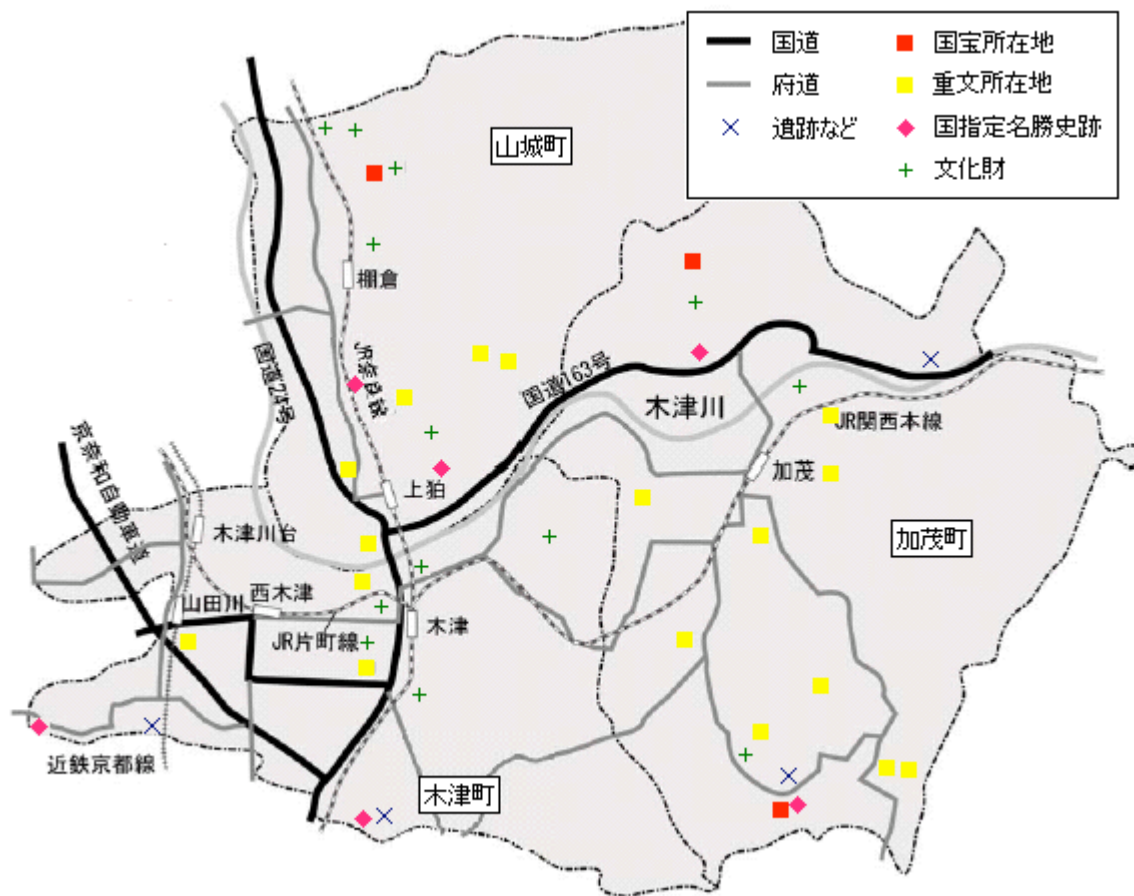
2005年4月1日現在

	建造物		美術工芸品		合計	
	重文 [a]	国宝 [b]	重文 [c]	国宝 [d]	重文[a+c]	国宝[b+d]
加茂町	12	3	22	2	34	5
木津町	2	0	3	0	5	0
山城町	5	0	7	1	12	1
新「木津川市」	19	3	32	3	51	6
京都府(参考)	285	48	1784	183	2069	231
京都市(参考)	200	40	1578	171	1778	211
宇治市(参考)	13	3	34	6	47	9
京都市を除く 府内市町村合計	85	8	206	12	291	20

(注)重要文化財(重文)件数には、国宝件数を含む。

出典:京都府庁 web サイト

3 町には以下のように文化財・史跡が分布している。



(木津町・加茂町・山城町合併協議会「新市基本計画」掲載の図をもとに作成)